

Title	差額比率による企業倒産の資金分析
Sub Title	
Author	上杉則雄(Uesugi, Norio) 柴田典男
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1989
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1989年度経営学 第669号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001989-0669

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	上 杉 則 雄	主査	柴 田 典 男
	(株式会社駿河銀行)	副査	伏 見 多美雄
所属ゼミナール	柴 田 典 男 研		小 野 桂之介

差額比率による企業倒産の資金分析

本研究の目的は、中小企業の倒産分析を通じて、その倒産原因を実証し、その倒産原因を倒産リスクとみなして現存企業の倒産リスクの早期診断に役立てることである。

ここでは分析手法として、個々の企業の倒産に至る個別の事情を捨象し、倒産企業と同様の財務的特徴をもちながら、様々な要因により存続しているグレーゾーン企業の存在を認めない伝統的な統計的なモデルの構築ではなく、個々の企業の資金リスクの発生を倒産原因とみなす差額比率分析手法を用いる。この手法には、企業の投資と回収の理論から、新たな指標の追加を試みている。

この分析手法により、倒産企業、ペアの現存企業および優良企業を対象に実証分析を行った結果、倒産原因は(1)早い投資速度、(2)運転資金のリスク、(3)キャッシュフローの赤字に分類されることが実証された。またこれらの分析に使われた説明指標は検出力が高いことが明らかになった。

この実証結果から、企業の資金リスクの標準的な評価方法を呈示した。このフレームワークにより、現存企業に対する倒産リスクの早期警告が中小企業や非製造業においても適用可能になったと思われる。この分析手法はより一般的な投資と回収の理論に裏づけられたことにより、企業や業種、分析の時期に係わりなく、資金繰りのリスクやその客観的な比較が可能になった点で、実用性は高いものと思われる。